

紀要委員会・編集後記

著者	北海道医療大学看護福祉学部
雑誌名	北海道医療大学看護福祉学部紀要
号	21
発行年	2014-12-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00010289/

紀 要 委 員 会

委員長 小林正伸
委員 薄井 明 内ヶ島伸也
唐津 ふさ 桑原 ゆみ
櫻井 潤 佐々木明員
志水 朱

編 集 後 記

あっという間にまた一年が過ぎようとしている。世界に目を向けると、ウクライナをめぐるロシアとヨーロッパの綱引き、泥沼のような内戦状態に陥っているアフガニスタンやイラク、イスラム国の登場によって多くの国が巻き込まれようとしているテロの嵐、独裁政治の抑圧に苦しむアジアの国々、領海・領土をめぐるお互いに憎悪の目を向け合う日・中・韓3国、いたるところにいがみ合い・争う人間の姿が目立って見える。国同士だけではなく、同じ国内にあっても、持てるものと持たざるものの格差が拡大し、お互いに助け合い、支えあうといった共同体は世界中から消え去ろうとしている。

日本は、国民皆保険制度によって国民の全てが平等に医療を受けられる社会であると思ってきたし、そのように教えてもきた。しかし、生活保護を受けている人以外に、無料低額診療を受けている人が年延べ700万人もいると言う。無料低額診療とは、公的保険の自己負担分を病院が負担して、無料にしたり安くしたりする制度である。中には、無保険の人も増加しており、病気になっても病院にかかることができないと言う。いまや建前上の制度が、崩壊の危機に瀕している。何かをしなければならぬのだろうが、何をどうすればいいのだろうか？

また一年考えて終わってしまうのだろうか。

(小林 正伸)